

## 公共交通利用促進事業

アナ： 『市長が語る 2021』第12回の今日は、「公共交通利用促進事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 市内には、バス、鉄道、タクシーといった多くの公共交通機関がありますが、コロナ禍で人の移動が減少している今、苦しい状況が続いているのではないのでしょうか。

市長： 昨年から続いております新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通事業者の皆様は、大変厳しい状況におかれています。

公共交通事業者の方々も、市民の皆様の安心・安全のため、新型コロナウイルス感染症予防対策をしっかりと行っておりますが、出張や旅行、あるいは、懇親会などの機会が減っていることや、テレワークの浸透などによって公共交通機関の利用が減っているのが現状です。

将来の公共交通に影響が出ることを防いでいかなければならないと考えております。

アナ： このままでは、お住まいの地域の公共交通が維持できなくなってしまうのではないかと心配になりますね。

自動車運転免許の返納をされた方や車をお持ちでない方などは、地域から公共交通機関がなくなってしまうと、買い物や通院などができずに困ってしまいます。

市長： そうですね。公共交通を維持していくためには、まず利用していただくことが大事になります。

マイカーだけでなく、お出かけする際の手段の1つとして、バス、鉄道、タクシーなどの公共交通機関の活用をお願いしたいと思います。

三島市でも、市民の皆様公共交通機関を日々の生活に活用していただけるよう、様々な取り組みをしています。

アナ： どのような取り組みなのでしょう。

市長： はい。

まず、公共交通事業者の方々と三島市が共同で、新たに公共交通マップを作成し、昨年度から市役所などで配布をしています。

バス路線や鉄道路線、タクシー乗り場を1つにまとめた、とても見やすいものになっています。

特にバスの路線図は、方面別に色分けをしておりますが、これは実際の三島駅南口のバスのりばの色と同じ色分けになっています。

また、昨年度より、三島駅南口にバスの行先、出発時刻、のりばを表示する

「デジタルサイネージ」という電子看板を設置していますが、こちらも先ほどご説明いたしましたバス路線図の色分けを利用していますので、いつ、どのりばから、どこへ行くバスが出発するのかがわかりやすくなっています。

アナ： どのバスに乗ればいいのか、慣れていないと難しいこともありますが、それを公共交通マップやデジタルサイネージが補助してくれるのですね。

市長： その他にも、市内を走る路線バスは、どんどん便利になってきています。三島市とバス事業者が協力し、交通系 IC カードやバスロケーションシステムが、市内を運行する一部のバス路線で使えるようになっています。

交通系 IC カードの導入により、お財布を持ち歩かなくてもスマートフォンで運賃を支払えたりするだけでなく、運賃支払い時に接触を避けられるため、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを減少させる効果も期待できます。

アナ： それはいいですね。ところで、バスロケーションシステムとは何でしょうか。

市長： GPS 情報を利用して、利用者が、地図上に表示されたその時点でのバスの現在地をスマートフォンで確認できるシステムです。

バスが行ってしまったのか、これから来るのかわからない、そんなときにこのシステムを活用することで、安心してバスを使うことができます。

アナ： その他にも取り組まれていることはありますか。

市長： 三島市では、70 歳以上の免許返納者や高齢者を対象に、公共交通機関で利用できる助成券を配布しています。市内を運行するバスや伊豆箱根鉄道駿豆線、タクシーで使うことができますので、ぜひ活用していただきたいと思います。

アナ： 公共交通機関を利用しやすいよう、様々な取り組みをされていることが分かりました。

それだけ日々の生活に移動というものは欠かせないのですね。

市長： バスをはじめとする公共交通機関が充実していることは、三島市の特徴でもあります。

買い物、通院などは日常生活に欠かせないものでありますので、市といたしましても、現在の公共交通網を維持しながら、公共交通事業者や市民の皆様と一緒に、いっそう使いやすく、便利なものにできるよう取り組んでいきたいと考えております。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。